

## むらづくりアンケートから見た住民意識について

「第六次湯川村振興計画」を策定するにあたって住民の意見を広く求め、今後の村づくりの基本的方向を確立するために、今回、15歳（高校生）以上の住民 2,598 人、村内外の小学校 5・6 年生 52 人、中学生全員 79 人を対象にした本調査を行いました。本調査の回収率については、15 歳以上の住民を対象にした調査では 840 件の回答がり、回収率 32.3%でした。また、小中学生を対象にした調査では、118 件の回答があり、回収率は、90.1%という結果となりました。

新しい時代の流れの中で、湯川村の基本的特性を再認識すると同時に、住民のむらづくりに対する考え方や要望を正確に把握することが、第六次振興計画の重要なポイントになるものと考えられます。

### (1) 湯川村への定住意向について

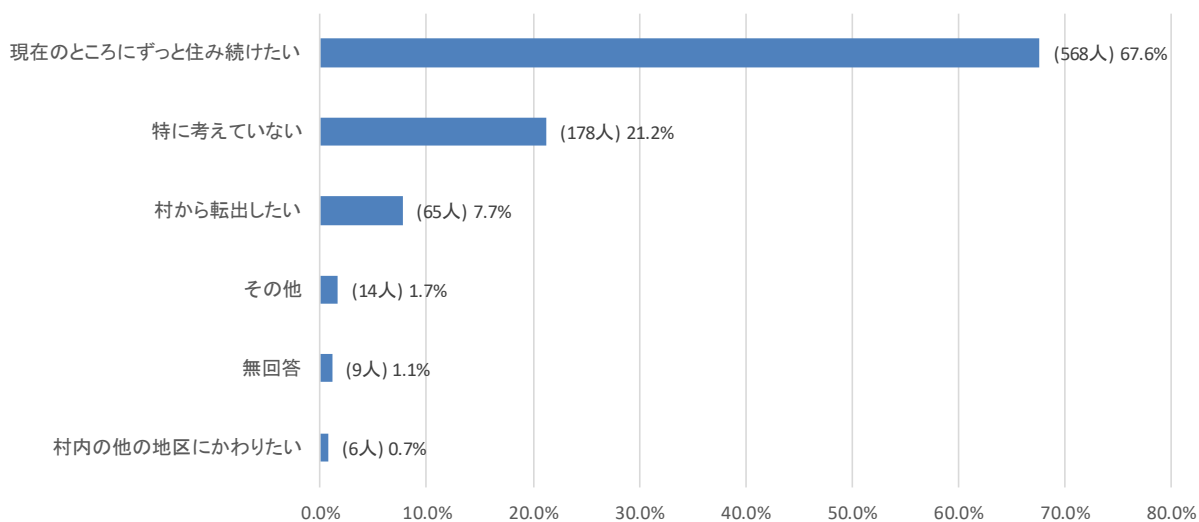
15 歳以上の住民を対象としたアンケートでは、「現在のところずっと住み続けたい」が 568 件 67.6%（3.7%↓前回：71.3%）であり、住み続けたい主な理由としては、「住宅に満足しているから」146 件 25.7%（12.4%↑前回：13.3%）、「むら（地域）に愛着を持っているから」110 件 19.4%（2.9%↑前回：16.5%）、「家庭や仕事の都合で」78 件 13.7%（4.2%↑前回：9.5%）、「まわりの住環境に満足しているから」61 件 10.7%（2.6%↑8.1%）等が挙げられています。反対に「村から転出したい」、「村内の他の地区にかわりたい」が 71 件 8.4%（0.8%↑前回：7.6%）の理由としては、「娯楽や余暇の場が少ないから」10 件 14.1%（2.4%↓前回：16.5%）、「買い物が不便だから」9 件 12.7%（1.7%↑前回：11.0%）、「通勤・通学に不便だから」7 件 9.9%（6.6%↑前回：3.3%）、「まわりの住環境に不満があるから」7 件 9.9%（1.1%↑前回：8.8%）という答えが挙げられています。

美田園地区の開発や若者定住住宅の整備により住宅への満足度が高くなったと考えられます。また、多くの人がむらに愛着を持ち住みつづけたいと感じている一方で、娯楽の少なさや買い物、交通の不便さに物足りなさを感じている人も多いということが分かる結果となりました。

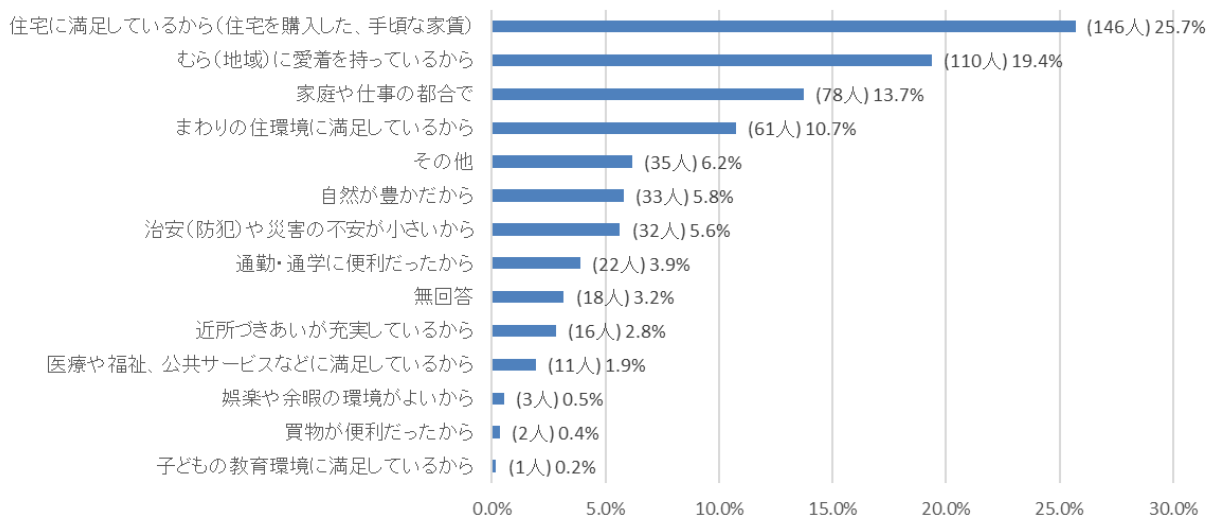


## 第1編 序論

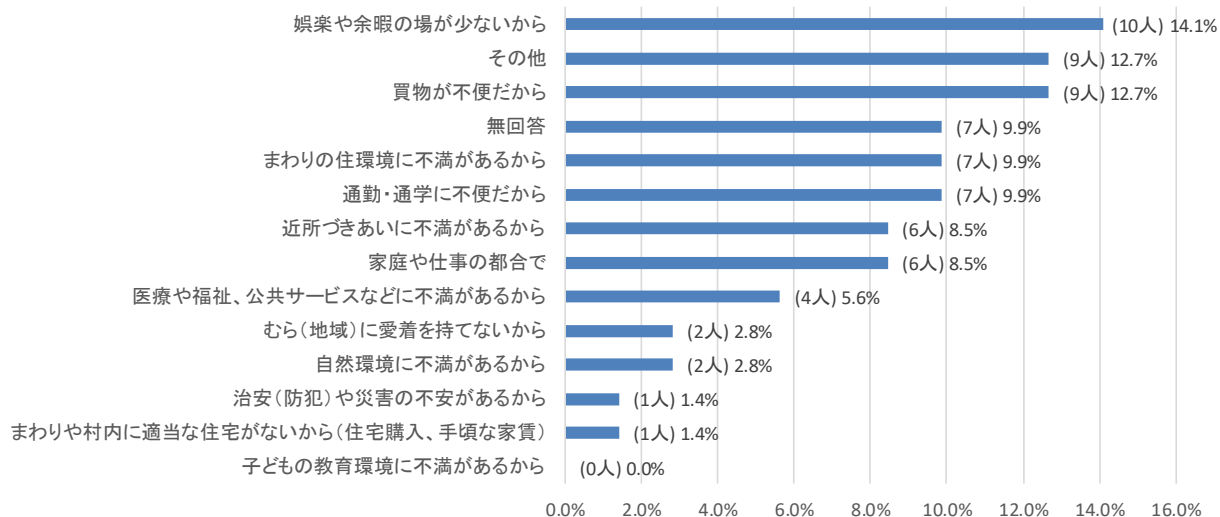
### あなたはこれからも湯川村に住み続けたいと思いますか



### 住み続けたい理由



### 住み続けたくない理由





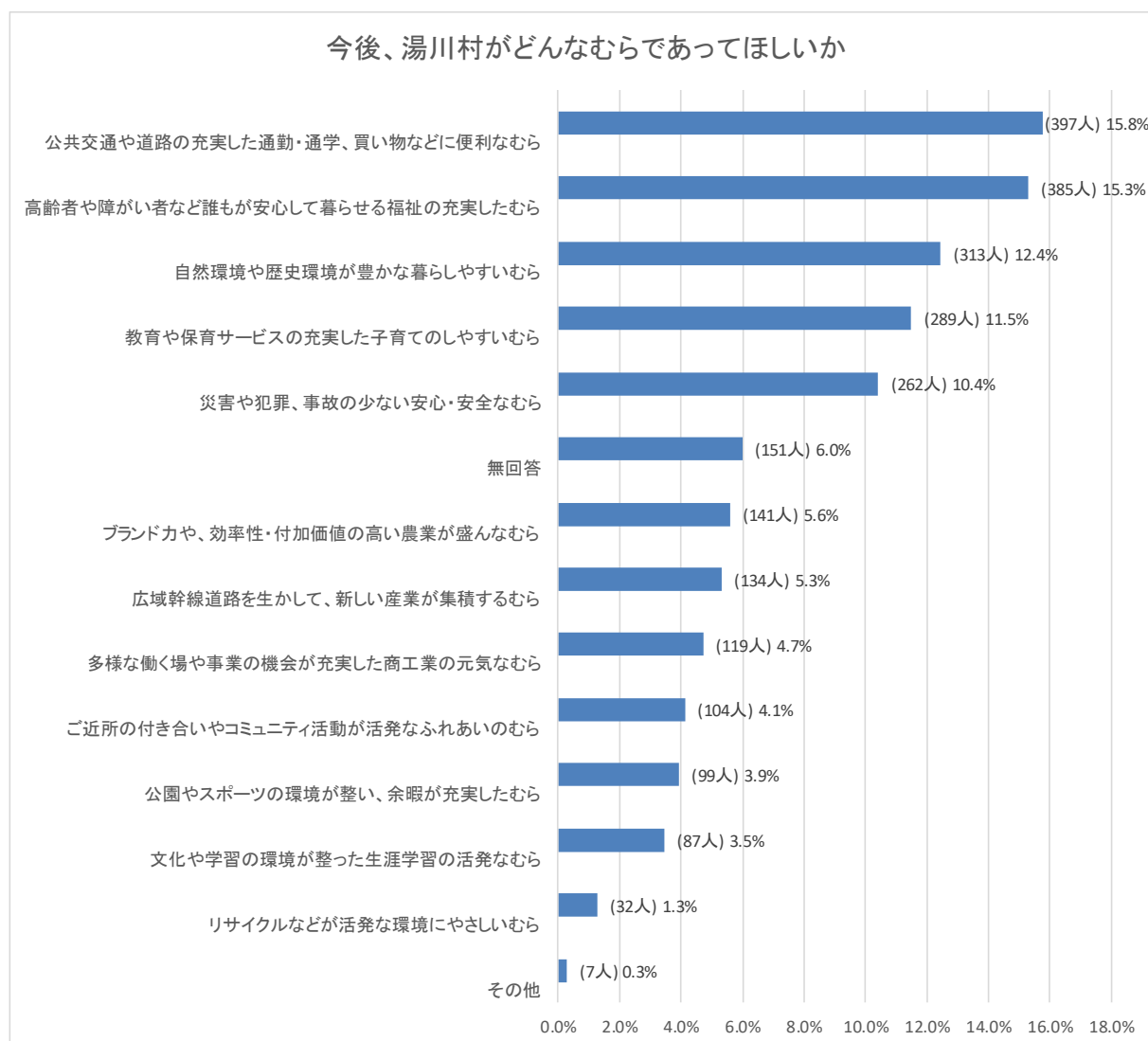
15歳以上の住民を対象としたアンケートでは、第六次振興計画における基本施策（大項目27項目）についてそれぞれ、5段階の「満足度」・「重要度」の調査を実施しました。「満足度」、「重要度」についてどちらも、全施策項目において「ふつう」が最も多い回答となりました。重要度においては、「普通」の回答を除き、「高い」の回答が特に多い基本施策としては、「安全・安心で、快適に住めるむらづくり」の中では、防災・消防、交通防犯対策の推進、住みよい環境の保全に関わる事業、「いつも健康で共に支え合えるむらづくり」の中では、生涯にわたる健康づくり、高齢者福祉の充実、子育て支援の充実に関わる事業への重要度が高いと回答する割合が多くなりました。また、「美しい田園風景と活力ある産業基盤のむらづくり」の中では、農業の振興や交通体系の整備、「笑顔で学ぶ心豊かなむらづくり」の中では、幼児教育の充実や学校教育の充実に関わる事業等への重要度が高いと回答する割合が多くなりました。東日本大震災以降も幾度となく自然災害や気候変動による異常気象等が起きており、防災意識への関心が高まっていることや、乳幼児から高齢者までの幅広い世代への福祉支援等への関心、基幹産業である農業の振興や公共交通への関心、子育てにやさしい村としての幼児教育、学校教育といった教育環境の充実への関心の高さや施策としての要望が多いことが伺えます。

### **(3) 今後の重点施策について**

15歳以上の住民を対象としたアンケートでは、「今後、湯川村がどんなむらであってほしいか」の回答として、「公共交通や道路の充実した通勤・通学、買い物などに便利なむら」397件 15.8%（2.4%↑前回：13.4%）次いで、「高齢者や障がい者など誰もが安心して暮らせる福祉の充実したむら」385件 15.3%（1.5%↓前回：16.8%）、「自然環境や歴史環境が豊かな暮らしやすいむら」313件 12.4%（0.7%↑前回：11.7%）、「教育や保育サービスの充実した子育てしやすいむら」289件 11.5%（0.3%↑前回：11.2%）、「災害や犯罪、事故の少ない安心・安全なむら」262件 10.4%（1.5%↓前回：12.9%）の順となっており、公共交通や買い物への利便性を求める声が多くあるとともに、福祉・子育て支援の充実、豊かな自然・歴史環境に囲まれた暮らしの拡充、防犯・防災対策の強化等、これまで重点施策として取り組んできた分野においての需要も高いことを表しています。



## 第1編 序論



また、今後の土地利用に関しては、「農業振興・緑地保全のための農地の有効利用・保全」が 240 件 28.6%（4.0% ↑ 前回：24.6%）と一番多くなっていますが、「安定雇用や税収増のための流通業や工業産業用地の確保」が 234 件 27.9%（3.0% ↓ 前回：30.9%）、「住民の定着や人口増加のため、新たな住宅用地を確保する」210 件 25.0%（2.1% ↑ 前回：22.9%）と次いでおり、また、その他の意見の中では、商業施設の企業誘致を求める声もあり、豊かな自然環境を守りながらも、商工業用地や住宅用地の確保により人口増加や税収増加を期待する声が多いと考えられます。

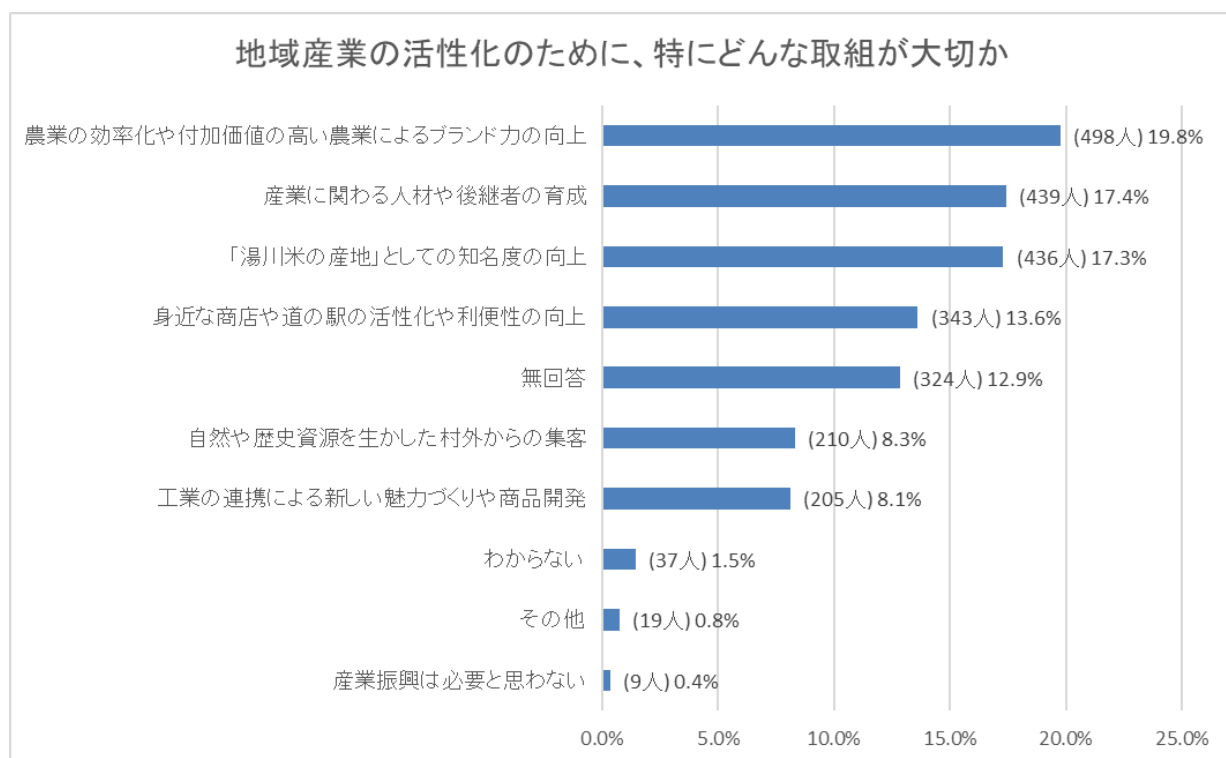
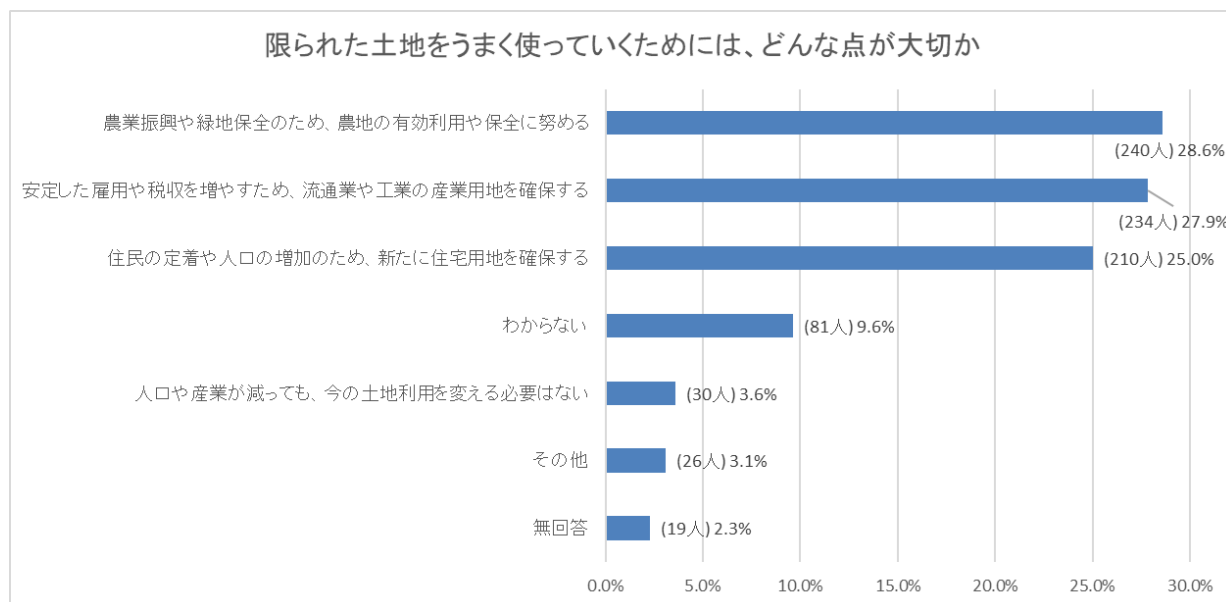
さらに、「地域活性化のために必要な産業振興の取組み」については、「農業の効率化・付加価値の高い農業によるブランド力の向上」499 件 19.8%（0.5% ↑ 前回：19.3%）、次いで、「産業に関わる人材や後継者の育成」439 件 17.4%（0.4% ↓ 前回：17.8%）、「湯川米の産地としての知名度の向上」436 件 17.3%（3.7% ↓ 前回：21.0%）、「身近な商店や道の



## 第1編 序論

駅の活性化や利便性の向上」343件 13.6%（4.2%↓前回：17.8%）の順となっており、湯川米のブランド力や知名度の向上につながる施策を求める声や基幹産業である農業を支える後継者の育成のための施策を求める声が多くありました。

また、農業施策だけではなく、身近な商店や道の駅を軸とした商業の活性化につながる施策を望む声が多いという結果となりました。



小学校児童・中学校生徒を対象としたアンケートでは、「将来どのような村になればよいと思いますか」の問いに対しては、「買い物が楽しめる



ショッピングセンターがある村」61件 13.6%（2.5%↑前回：11.1%）で一番多く、次いで「水や空気がおいしく、うつくしい風景に囲まれた村」49件 10.9%（2.0%↑前回：8.9%）、「犯罪や災害が少ない安心して暮らせる村」46件 10.2%（±0 前回：-%）の順となっています。身近に買い物ができる場所など生活の利便性を求める一方で、美しい自然環境や安心して暮らせる生活を将来に引き継ぎ大切に守っていききたいという思いが込められていることが分かります。

また、15歳以上の村民を対象としたアンケートにおいても、村民の多くは、公共交通の充実による通勤・通学・買い物等への利便性の向上、高齢者、障がい者福祉、子育て支援の充実、自然環境・歴史環境の豊かさ、防犯・防災対策の強化を望む声が多く、これまで育んで来た自然環境や歴史文化を大切にしながらも、より便利でこどもから高齢者が安全・安心に過ごすことができ、誰もが快適に暮らせる環境や暮らし、そして、これからも湯川村に愛着を持ってずっと暮らし続けたいと思える10年後の未来を望んでいることが伺えます。